

自分・家族の命を守るために「警戒レベル」に応じて避難！！

「避難情報に関するガイドライン」（内閣府）では、住民は「**自らの命は自らが守る**」意識を持ち、**自らの判断**で避難行動をとるとの方針が示されました。この方針に従い、住民がとるべき行動を理解しやすくなるよう、**5段階の警戒レベル**を明記して、気象庁等や自治体から防災情報が提供されることになっています。

気象庁等の情報	警戒レベル（避難情報等）	住民がとるべき行動
大雨特別警報 氾濫発生情報	警戒レベル5 緊急安全確保	命の危険、直ちに身の安全確保 (災害が発生又は切迫している状況。)
土砂災害警戒情報 氾濫危険情報 高潮特別警報 高潮警報	警戒レベル4 避難指示	危険な場所から全員避難 (台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了しておく。)
大雨警報（土砂災害） 洪水警報 氾濫警戒情報 高潮注意報	警戒レベル3 高齢者等避難	危険な場所から高齢者等は避難 (高齢者等以外の人も、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難する。)
氾濫注意情報 大雨注意報 洪水注意報 高潮注意報	警戒レベル2	自らの避難行動を確認 (ハザードマップ等により、自宅等の災害リスクを再確認するとともに、避難情報の把握手段を再確認する。)
早期注意情報 (警報級の可能性)	警戒レベル1	災害への心構えを高める

<ポイント>

- ✓ 「警戒レベル3」で、「**高齢者等が避難**」。
- ✓ 「警戒レベル4」で、「**全員が避難**」。



▼平成30年7月豪雨被災者の声

- ・ハザードマップでは自宅周辺まで浸水することを明示していたが、現在は河川改修がなされたこともあって「超えないであろう」と油断していた。
- ・避難の声かけをしたが、まさかこのようなことにはならないと思って自宅待機して被害に遭われたのではないかと。
- ・避難を呼びかけたが逃げない人もいて、30分程度説得した人もいた。

※平成30年7月豪雨による水害・土砂災害からの避難に関するワーキンググループ「現地調査・ヒアリング結果」より抜粋



※自然災害は、決して他人ごとではありません。「あなた」や「あなたの家族」の命に関わる問題です。

※家族・隣近所・地域の人と助け合って一緒に避難しましょう。